

校名	府立東淀川支援学校
校長名	芥川 豊和

開催日時	令和4年 6月27日(金) 10:00~12:00
開催場所	大阪府立東淀川支援学校 図書室
出席者(委員)	鈴木委員・栢木谷委員・寺田委員・久米委員・島田委員 (欠席:藤澤委員)
出席者(学校)	芥川校長・北條教頭・岡崎教頭・加藤事務長・林首席・池田首席・石田首席・溝口首席
傍聴者	なし
協議資料	次第、委員名簿、学校運営協議会委員一覧、学校運営協議会実施要領、傍聴に関する要領、令和3年度学校経営計画及び学校評価、令和4年度学校経営計画、教科用図書、学校要覧、学校案内

議事等(次第順)	
委員紹介、会長選出、学校経営計画に関する事項、教科用図書の紹介	
協議内容・承認事項等(意見の概要)	
会長	【令和4年度学校経営計画について】 熱中症対策についてはどうか。
委員	最近本校の保護者から子どもが運動会練習時に熱中症の症状で学校から緊急搬送されと伺ったが、学校の対応が早くてよかったと聞いた。
委員	「居住地校交流の充実」についてはどのような内容を実施しているのか。
校長	保護者のニーズを聞き、交流校と相談しながら実態に応じて取り組んでいる。内容としては、居住地にある学校の運動会や文化祭などの行事に参加したり、授業を一緒に受けたりしている。
教頭	本校では、開校より地域との学校間交流にも積極的に取り組んでおり、地域の啓発小学校、西淡路小学校・淡路中学校・中島中学校・柴島高等学校といろいろな活動を通して交流を図っている。
委員	コロナで昨年度まで中止になっていた行事が当たり前ができることを子どもは大変喜んでいる。私が最近相談を受けることとして就学前の子どもが支援学校を希望することが増えていると感じる。
委員	災害等非常時の場合の子どもの引取りがすぐにできない家庭もあると思うが、保護者の引取りが難しい場合はどう対応しているのか。
校長	昨年度、稼業中に新型コロナウイルス感染症の対応により急遽臨時休業となり、保護者に児童生徒の迎えに来ていただいた。その際、迎えが夜になることもあった。遅くなった際は、防災関係の備蓄品で対応するという事になっている。
委員	災害時の避難所の開設について、地域との協力体制をどのように行っていき、避難所経営をどうしていくのかなどはどのように考えているか。
校長	地域と防災についての会議を年1回実施していく予定にしている。
首席	東淀川区役所と協議を行い、地域の方が本校に避難をしてくる際の区域割を設定した。今後も地域と連携していく。

委員	卒業後にむけた早期からの取組みについて、中学生ぐらいからでよいのではと思っているがどうか。
校長	また、支援学校の小学校、小学部への取り組み方やその取り組みについての広め方はないか。
委員	小学部の進路先については、保護者のニーズを受け、個別に様々な学校を見学してもらっている。現在中学校支援学級の7割の生徒は高校へ進学していると聞いている。中学卒業後の進路先の選択肢が増え、個々の子どもにあった進学ができてきている。市立の小中学校では障がいのある生徒の進路の情報が少ないとの声があり、本校からセンター機能として情報提供していきたいと考えている。
会長	支援学校の生徒は進路指導に取り組みれ力をつけているが、高等学校へ進学した生徒の進路指導に課題があると感じている。高等学校では障がいのある生徒への進路の情報が入りにくく、実際に卒業後、就労ができないと相談があった。私の運営する事業所に支援学校の生徒が実習に来た様子を見て、進路に対して積み上げ経験がありたくましいと感じた。支援学校ならではの力があると思う。支援学校には障がいのある生徒への進路に関するノウハウがあるが、府立高等学校に同じように進路指導を求めると課題があると聞いている。そのため、支援学校から府立高等学校に障がいのある生徒の進路指導についての提案も必要と感じる。
委員	私の会社では支援学校を卒業した実習生を3名受け入れた。卒業する前に現場実習が2回あるが、アルバイトを含め本人を理解するには時間がもっとあってもよいのではと思った。企業側も本人をみたいとの声もあった。
校長	支援を要する生徒に、多様な制度があるとよいと感じる。成功体験が積み上げられるような実習を取り組んでいただきたいと思う。
委員	保護者として就労にこだわらずに、子どものタイプに応じて進路指導や選択ができていければという思いもある。
会長	子どもを見て、本人の希望もあり、療育・学習面などを含めてどこかの力を伸ばすことがよいのかなど考え、就労させたいが、本人にとってよいかなど悩み迷うとよく聞いている。進路は、一人一人の生活にかかわっていくことや知的障がいの子どもたちが高等部を卒業してすぐ（就労すること）もあり、そのあと1年、2年など学びの期間があることもある。
校長	本校で行う進路の研修会に地域の小・中学校や高等学校の先生方にお知らせし、障がいのある児童生徒の進路について一緒に研修する機会を持つ予定。今年度はこのような地域の学校園との研修を行うことでセンター的な役割を担おうと思っている。
首席	学校説明会を年3回実施している。その中でも進路についての相談を多く説明している。教育相談の場では、地域の先生方にも来ていただき知っていただく場になっていければと考えている。
委員	地域によって、子どもたちの受け止め方が違う印象を持ったことがある。
会長	地域での受け止め方の差をなくす意味でも地域連携会議は東淀川支援学校にとっての良さになっていると感じている。
教頭	地域連携会議の中で様々な学校での障がいのある児童生徒にかかわる課題などを発信する場になっている。今後、支援教育のセンター的な役割として支援学校のコーディネーターが府立高等学校の生徒の相談にも対応していく予定となっている。
教頭	【令和5年度教科用図書の選定について】 今年度の教科用図書について説明。次年度の教科用図書の選定内容について説明と確認。

次回の会議日程	
日時	令和4年11月18日（金）（予定）
会場	大阪府立東淀川支援学校